

2024年2月21日

報道関係者 各位

国立アイヌ民族博物館 プンカラ協働展示開催のご案内

アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（愛称プンカラ）協働展示

「アイヌの建築と工芸の世界－チセ、マキリ、アットウシ－」

The World of Ainu Architecture and Crafts – cise, makiri, attus,

a cooperative exhibition by the National Ainu Museum's punkar network

※「プンカラ」は、アイヌ語でブドウ、サルナシなどの植物の蔓のことを意味し、
ネットワーク事業の「繋がり」や「広がり」から連想した名称です。

日頃より、当館の事業運営等に格別の御理解と御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

アヌココロ アイヌ イコロマケナル 国立アイヌ民族博物館（館長：佐々木史郎、所在地：北海道白老郡白老町）は、2024年3月1日(土)から2024年3月24日(日)まで、プンカラ協働展示「アイヌの建築と工芸の世界－チセ、マキリ、アットウシ－」を、文化庁国立近現代建築資料館（所在地：東京都文京区湯島）を会場に開催いたします。



国立近現代建築資料館
National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館



文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan

本件に関するお問い合わせ先

国立アイヌ民族博物館 事業課 広報担当

〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2-3-1

メディアの方のお問合せ先

⇒（国立アイヌ民族博物館 事業課 広報担当）

TEL: 0144-84-1461

E-mail: information@nam.go.jp

FAX: 0144-84-8797



1. 基本情報

(1) 展覧会名称

日本語名称：プンカラ協働展示「アイヌの建築と工芸の世界－チセ、マキリ、アットウシ－」

※「プンカラ」は、アイヌ語でブドウ、サルナシなどの植物の蔓のことを意味し、ネットワーク事業の「繋がり」や「広がり」から連想した名称です。

英語 名称：The World of Ainu Architecture and Crafts – *cise, makiri, attus*

(2) 展覧会概要

プンカラ協働展示は、アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク事業（愛称 プンカラ）の事業として、国立アイヌ民族博物館と68の会員機関が協力し、アイヌ文化を紹介する展覧会です。

「チセ」はアイヌ語で「家屋」を指す言葉です。生活の中心となるチセは、人が生まれ、育ち、仕事をし、カムイに祈る場所です。チセの建材はもちろん、祭事具や道具の素材には植物が多く用いられています。男性はマキリ（小刀）で木を彫りだして、独自の文様を刻み、女性は樹皮からつくった糸で布を織り、刺繍を施して、アットウシ（樹皮衣）をつくり上げました。このような木で作られたものを使いながら、今もカムイとともに暮らしているのです。

本展覧会では、伝統的なチセのつくりや使われ方を中心に、植物を素材としたアイヌの民具を紹介します。さらに、現代の作り手による工芸品など今に息づくアイヌ文化をご覧ください。チセを中心としたくらしから、アイヌ文化への理解を深めていただければ幸いです。

(3) 会場：文化庁国立近現代建築資料館（東京都文京区湯島 4-6-15 湯島地方合同庁舎内）

(4) 会期：令和6（2024）年3月1日（金）～令和6（2024）年3月24日（日） ※月曜日休館

(5) 主催・特別協力・後援

主催：国立アイヌ民族博物館

共催：文化庁国立近現代建築資料館、浦幌町立博物館、新ひだか町博物館、
平取町立二風谷アイヌ文化博物館

後援：北海道アイヌ協会

(6) 展示資料数

共催館及び国立アイヌ民族博物館所蔵のアイヌ民族資料ほか、約130点

(7) 観覧料

無料

入館方法

- ・展覧会のみ観覧（平日のみ利用可）

湯島地方合同庁舎正門より入館。入館料無料。都立旧岩崎邸庭園には入場できません。

- ・旧岩崎邸庭園と同時観覧

都立旧岩崎邸庭園より入館。旧岩崎邸庭園入園料（一般400円）が必要です。

(8) ウェブサイトのURL

<https://nam.go.jp/exhibition/>

2. 展示構成等

以下の5つのテーマで構成。

(1) アイヌの歴史と文化

(2) アイヌの儀礼 ―チセで祈る―

日常生活の中心であるチセの中では、カムイに日々に祈りを捧げます。カムイへの贈物、祈り詞を伝える道具など、さまざまな祭具や儀礼のときに身につける装飾品があります。



イクパスイ
浦幌町立博物館蔵



エムシアツ（刀懸帯）
新ひだか町博物館蔵

(3) アイヌの暮らし ―チセの中の暮らし―

伝統的チセの特徴はケトゥンニなどと呼ばれる三脚構造の屋根にあります。そしてチセの中心には炉があり、そのまわりで暮らしに必要な道具がつくられてきました。



チセ（家屋）模型
平取町立二風谷アイヌ文化博物館蔵



マキリ（小刀）
アイヌ民族文化財団蔵



アットウシ（樹皮衣）
平取町立二風谷アイヌ文化博物館蔵



編袋
新ひだか町博物館

(4) 民具の素材 ー木の恵みー

チセの建材としてはもちろん、木はくらしを支える大切な素材でした。そして木もまたアイヌ（人間）にとって重要なカムイです。



植物標本 ミズナラ
浦幌町立博物館蔵

(5) 地域のアイヌ文化 ー地域の誇り、伝統技術の粋ー

共催3館の浦幌町、新ひだか町、平取町では現在も地域のアイヌ文化が受け継がれ、物づくりをはじめ、いろいろな活動が行われています。



二風谷イタ （高野繁広作）
平取町立二風谷アイヌ文化博物館

3. 関連事業

・「ギャラリートーク」

国立アイヌ民族博物館、プンカラ会員機関の研究者・学芸員による解説
各土日14時～ 30分程度

・「アイヌ民具にふれてみよう」

民具や工芸品、素材にさわったり、衣服の試着体験からアイヌ文化を学ぶ
各土日11時～13時

実施日：3月2日（土）、3日（日）、9日（土）、10日（日）、16日（土）、
17日（日）、23日（土）、24日（日）

・「ムックリ演奏体験講座」

3月20日（祝） 10時30分～、14時～

講 師／木原仁美（公益財団法人アイヌ民族文化財団）

人 数／各回20名

以上